



看護学科

柴田 由里子 助教

【研究分野】 妊産婦の座位行動に関する研究、看護・助産学生のシミュレーション教育の研究
 【キーワード】 妊産婦・女性の健康、座位行動、シミュレーション教育
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=312shiba>



妊産婦の座位行動、シミュレーション教育

研究概要

近年めざましい技術革新によって現代人の座位行動は増加し、覚醒時間の約50%以上を占めると報告されています。長時間の座位行動は、中高強度の身体活動と独立して総死亡など様々な健康指標に悪影響を与えます。妊婦は解剖生理学的に心身に多様な変化を伴うため座位行動は一般人以上にリスクが高く、これを回避するために医療従事者の介入が必要となります。しかし、妊婦を対象とした座位行動の研究は非常に少なく、支援方法は見いだせていません。妊産婦や児の健康水準の向上のため、研究を進めています。

COVID-19流行に伴い臨地実習の中止を余儀なくされた看護学生に代替実習や分娩介助実習前のシミュレーション教育を提供するための研究を行っています。

研究紹介

- 妊婦における座位行動の実態と関連要因に対する研究
 - * 質的研究による、妊婦の座位行動の実態と修正可能な関連要因の検討
 - * 効果的な取り組み構築への示唆
- 看護・助産学生に対する代替実習やシミュレーション教育に関する研究
 - * 看護学生における学内代替実習の工夫と実践について
 - * 助産学生における分娩介助実習前の模擬産婦を活用した教育効果の検討



アピールポイントなど

- COVID-19の影響から、人々の座位行動はさらに増加しています。特に妊婦は、感染回避のため自宅で過ごす時間が増し、スクリーンタイムが増加することで座位行動が増加しているとの推察されます。この状況下で行動変容を促進できるような支援や環境などの開発のための研究に取り組み、母児の健康水準の向上に尽くします。
- 看護・助産学生に対して、臨地実習ができない状況でも代替実習やシミュレーションを取り入れて疑似的体験による臨地実習に近い教育を目指しています。